

共に学び、共に創る地域の学校『瀬谷さくら小学校』

～みんなの力で守り育てよう、瀬谷さくら小学校、さくらの子～

## 学校運営協議会 全体研修会 さくらの会開催

9月14日、保護者や地域の方々、さくらプロジェクトの児童たち、学援隊やさくらの子応援隊で活動するボランティア9サークル、約100名の方々が瀬谷さくら小学校体育館に集まり、全体研修会「さくらの会」が開催されました。学校運営協議会の各部会やサークルの報告は、改めて、それぞれの活動に対する、お互いの理解を深め合うことができました。最後に、合唱サークル・カナリヤ会の優美な女性コーラスを聴き、みなさん心を和ませつつ閉会しました。

### 今年度の学校運営協議会の活動について 総代会長

皆様お早うございます。本日は全体研修会「さくらの会」に、大変お忙しい中、また、足元の悪い中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。多くの皆様に、児童の皆さんのが安全に安心して通学できるよう、暑い日も寒い日も、雨の日も欠かさず、見守りや声掛け、交通安全指導をしていただいております。さらには、さまざまな学習支援活動をご熱心に行っていただいていることに心から感謝申し上げます。

この「さくらの会」は、学校経営方針や経営目標について、PTAの皆様が行われる活動について、運営協議会とその各部会の活動について、さらには、各部会にご協力頂いている皆様方について、保護者の多くの方々にご理解を深めて頂きたいとの思いで開催しております。そのうえで、児童の皆さんや学校に関わっていただいている方々の連帯感がさらに強くなることを願っております。今日はさくらプロジェクトの児童の皆さんも、日頃ご熱心に取り組んでいただいている活動を発表して下さることになっております。本当に楽しみでございます。併せて皆さんに、児童の皆様のご熱心な取り組みについてもご理解を深めて頂ければと考えています。

この学校運営協議会の初年度の活動は、ただ今皆さま方に歌っていただきました、瀬谷さくら小学校の校歌「大きな翼」と、校章を作らせていただきましたことでありました。いま改めて聴きますと、素晴らしい校歌をお作り頂いたなあと、そして、児童の皆さんのが学校の主な行事の都度歌っていたいっていることを思うと胸が熱くなります。

学校運営協議会の本年度の取組につきましては、すでに広報誌第1号で皆様にお知らせしてご

ざいますが、児童の皆さんの健やかな成長を願って、  
“共に学び、共に創る地域の学校『瀬谷さくら小学校』～みんなの力で守り育てよう  
瀬谷さくら小学校



さくらの子～”を念頭に、皆様とともにこれまで以上に努力してまいりたいと考えています。協議会といたしましては、各部会の皆様が活発に活動して頂けるよう、また部会間の連携を図って頂けるよう努めてまいりたいと考えています。また、協議会の役割について、必要な機能や組織の在り方などについても絶えず考えてまいりたいと考えています。さらに、児童の皆さんの学力向上について、大切な防災計画について、地域の連携について、地域の素晴らしい人材の活用についても、皆様と一緒に検討してまいりたいと考えています。保護者の皆様や地域の皆様のニーズを把握するためのアンケートを実施させていただき、その分析結果を学校運営や教育活動に反映させていただきたいとも考えています。本日の活動もそうですが、運営協議会の活動を、保護者や地域の皆様の、より多くの方々に知っていただくための広報活動に努めてまいりたいと考えています。

いずれにしましても、皆様方のご理解と温かいご支援、ご協力、ご指導なくしてはできませんので、引き続きこれらをお願い申し上げて、あいさつ並びに今年度の活動についての報告とさせていただきます。ありがとうございました。

## 今年度の学校運営方針について 八嶋校長

皆さんこんにちは、瀬谷さくら小学校校長の八嶋です。

本校は、皆さんご存知の通り、学校運営協議会をもっている学校、つまり、文科省から地域運営の学校という指定を受けた学校です。みなさん本当に沢山のお力とお知恵をお借りしながら開校から4年間やってまいりました。みなさんのご協力に心から感謝申し上げます。平成25年度に瀬谷さくら小学校がどんなことに取り組んでいるのか、どんな目標をもっているのか話をさせて頂きます。

瀬谷さくら小学校は、ご存じのとおり、平成22年、下瀬谷小学校と日向山小学校の再編統合によって開校しました。開校にあたって、地域の皆さんの熱い思いで、新しい校歌、新しい校章を作っていました。そして、平成22年には文部科学省の指定を受けて道徳教育の全国発表をいたしました。22、23年度は文部科学省の学校運営協議会推進校の指定を受けて、23年度には網代会長と私で、全国協議会で発表させていただきました。



また、平成23年度、24年度には、健康教育の取組が高く評価されて、横浜市の健康優良校の受賞を2年連続でいたしました。これはすごいことだと思って、いただいた賞状と記念の楯を持ってまいりました。

平成24年度は横浜市の優秀教育実践校としての表彰を受けました。これはとても大きな賞で、横浜市523校の小、中、高校の中で最も輝いた学校、頑張った学校に頂く賞です。これから先50年、100年に一度となるかどうかわからない賞だと思っています。

たった3年の間にこれだけの賞を頂いている背景は何かというと、それは学校運営協議会、つまり、ここに集まっていた皆さんの力です。学校は横浜市から費用を頂いて運営されていますが、年々予算も少くなり、その中でやれることには限りがあります。沢山の先生が欲しいといつても、できるわけではありません。それが、本校は、学校運営協議会を中心としたさくらの子応援隊や学援隊など、地域の皆さんのお力を得ることで、子どもたちにきめ細かい丁寧な指導ができるようになりました。登下校も、本来、保護者が自分の子どもを守って学校へ送り出さなければならないところですが、学援隊の皆さんのおかげで、安心して学校に来ることができ、また、帰ることができます。それから、昨年度から、算数の補習授業にも地域の方々が入って下さっている

し、今年度からは、かけ算の九九を覚えなければならぬ3、4年生の授業にも入っていただいています。まだまだ課題はありますが、頑張っていきたいと思っています。

学校教育目標は、ご承知のように、「自分大好き 友達大好き このまち大好き さくらの子」です。この大きな目標に向かって、5つの柱、知、徳、体、公、開の5本柱で取り組んでいます。

「知」は、基礎基本を身に着けるために、課題解決に向けて、粘り強く取り組む姿勢を育てるということでがんばっています。具体的には、漢字検定や算数検定など独自の取り組みも行っていますし、特に、算数補充学習や算数授業サポートは本校のみの取組になっています。「徳」は、規範意識を育て、善悪の判断ができる子、自分を大切に、他を思いやれる子を育てるよう取り組んでいます。あいさつや言葉遣いは年間の目標です。子どもたちのあいさつも、学校だけではなかなか向上しません。でも、登校時に学援隊の皆さんに「おはよう」と声をかけていただき、また、あいさつをする回数がたくさんあるので、瀬谷の中でも、本校の子どもたちはあいさつがよくできるといろんな人に言われます。あいさつも練習なんだとあります。今年も縦割りの学習、命の学習、ふわふわ言葉に取り組んでいます。子どもは決してもとから善悪の意識があるわけではありませんので、繰り返しながら、いい事はいい、悪いことは悪いと、その都度教えていかなければいけません。これも、学校の職員はもちろん頑張っていますが、地域の皆さんも声をかけてくださっていることが、本当にありがとうございます。「体」の部分は、望ましい生活習慣を身につけ、進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てています。本校の子どもたちの体力は、横浜市の平均値よりも高い数値が出ています。先生方のボランティアによって朝練も行っています。もっともっと多くの子どもたちが参加してくれるといいなと思っています。

「公」は公共心の部分です。これは、本当に地域の力、地域の皆さんにいろいろ教えてもらいながら、子どもたちの公共心が育っていると思います。「開」は開かれた心ですが、情報教育など様々な今日的課題に対応できる力を育てています。ここでは、図書館の活動で図書ボランティアさんの活動がとても大きいです。本校の図書ボランティアさんの活動が、横浜市の学校司書という今年度から始まる取り組みですが、そのお手本になったということで、本校としても誇れることだと思います。

まだまだお話ししたいことは山ほどありますが、皆さんのおかげで子どもたちの学習が充実して、教育活動が充実していることを心から感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひいたします。

## 今年度のPTA活動について 斎藤副会長ほか

こんにちは、瀬谷さくら小学校PTA副会長の斎藤です。本日、会長の太田が所用により出席がかないませんでした。くれぐれも皆様によろしくお伝えくださいとのことでした。

皆様には日頃よりPTA活動に対し、ご理解ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。今日はPTAの活動を各委員会よりご報告させていただきます。

今年度のキャッチフレーズは、『明るく元気な笑顔と活力に満ちたさくらの子を育てよう！』です。PTA本部は、さくら小のすべての子どもたちが、笑顔で元気に活力に満ちた子に育つように、今までも、そして、これからも全力で企画、実行していきます。

では、各委員会より活動報告させていただきます。学年成人委員会、広報保健委員会、校外委員会、そして今年度より推薦委員会が立ち上がり、4つの委員会に分かれております。

**学年成人委員会の鈴木です。**学年成人委員会の活動は主に3つあります。1つめは、年4回のベルマークの収集と集計です。これは学校の備品の購入などに当ります。2つめは、年3回の保護者を対象とした講習会の企画運営です。そして3つめに、防犯パトロールとして、自転車などにつけるプレートの配布や登校時の見守りを、保護者全員で定期的に実施しています。

### 児童会の活動報告 さくらプロジェクト児童

私たち瀬谷さくら小学校「さくらプロジェクト」では、学校中、楽しいところにしたいとの思いをもち、そのためには、思いやりの気持ちをもって、夢に向かって努力することが第一歩だと考え、児童会議スローガンを「思いやりで絆を深め、夢に向かう姿勢」にしました。そのスローガンを達成するためには、自分たちが積極的に声を掛け合ったり、思いやりを持った心で接するよう、心がけをしていくことが大切だと考えました。



そのための活動としてあいさつ運動があります。あいさつ運動とは、月曜日と木曜日に、門の前で横断幕を掲げ、学校へ来る人に、「お早うございます」と声をかける運動です。また、あいさつポイントカードを作って、皆が気持ちよくあいさつができるように工夫もしています。あいさつポイントカードとは、レベル5のあいさつができた人にポイントを配り、ポイントを貼っていくカードのことです。レベル5のあいさつとは、立ち止まって、相手の目を見て、笑顔で行う挨拶です。このあいさつレベルを

**広報保健委員会の大島です。**広報保健委員会では、本年度3回の広報誌を発行します。学校と地域の方々の架け橋となるような広報活動を心がけています。また、給食試食会の開催や歯磨きカードの配布、保健大会や学校保健委員会に参加し、子どもたちの心と体の健康についての活動も行っています。

**推薦委員会の小島です。**私たち推薦委員会は、次年度本部役員、会計監査の推薦と、ボランティアの保護者の皆様と夏祭りや運動会、下瀬谷鍋などの各行事のお手伝いをしています。よろしくお願ひします。

**校外委員会の兼武です。**校外委員会は、子どもたちの安全を守るために、「通学路の安全確保」に重点を置いて活動をしています。主な活動としては、集団登下校班の管理、児童たちと通学路の注意箇所の確認、スクールゾーン協議会の開催、『子ども110番の家』の登録お願い、母の会への参加です。子どもたちの安全を多くの目で見守ることができますよう、今後も、各家庭や地域の方々のご理解とご協力をお願いいたします



昇降口に張り、全校でレベル5のあいさつを意識できるようにしています。ポイントカードには、いろんな振り返りができるようにしています。これによって、一週間の自分のあいさつの様子を振り返り、より良い挨拶ができるようになります。

私はあいさつ運動を行っていて、大きな声であいさつをする人が増えたと感じています。自分から挨拶をする人も増えました。しかし、レベル5のあいさつができるているのは、低学年の人が多いようです。学年が上がるにつれて上手な挨拶ができる人は少なくなっているような気がします。また、ポイント目的であいさつをする人もいるようです。あいさつ運動は、「全校のみんなが気持ちのよいあいさつができるようにする」というのが狙いなので、学年を問わず誰でも気持ちの良い挨拶ができるといいなと思います。また、あいさつ運動が終わっても、自然にレベル5のあいさつができる学校を目指していきたいと思います。

スローガンを達成するためのもう一つの活動は、思いやり週間です。瀬谷さくら小学校では、廊下や階段に、ふわふわ言葉がたくさん貼ってあります。これは、いつでもふわふわ言葉を意識して、たくさん使っていくことができるようになります。学校運営委員会でもふわふわ言葉を増やすためにどうしたらいいかの話し合いが行われ

ました。すべてのクラスで、ふわふわ言葉を増やし、チクチク言葉を減らすにはどうすればいいか話し合い、取り組みを進めています。そこで、今年度初めての試みとして、思いやり週間を始めました。全校のみんなが思いやりの気持ちをもてるように、さくらプロジェクトが提案して、全校委員会で話し合いました。全校のみんなが思いやりの気持ちをもって行動できるように、思いやりポイントカードをつくり、自分が言われてうれしかった言葉や自分がされて嬉しかったことを書き込みます。そのコメント一つが1ポイントとなり、ポイントが多くなったクラスに思いやり認定書を渡します。思いやり週間は、夏休み前に2週間行いました。

僕は思いやり週間の活動を通して、思いやりが増えることを実感しています。クラスのみんなのカードには、日に日にたくさんの思いやりの言葉や、行動が書き込まれています。また、ぼく自身もいろいろな人に声をかけてもらったり、優しくしてもらったりすることが増えてきました。このような行動を全校の人ができるようになれば、思いやりの気持ちがあふれ、よい学校になると思います。しかし、一部の人にとっては、ありがとうと言われたり、困ったときに助けてあげたりする

ことは当たり前でしたので、ポイントカードに書く言葉は少ないようです。カードに書き込むときも、「嬉しかったことないなあ」と言っている人がいます。このように自然に思いやりのこもった行動ができることが一番だとは思いますが、思いやり週間を意識しているにもかかわらず、続けていないということは課題だと思います。

思いやり週間は今年度初めての取組なので、まだまだ思いやりに対するみんなの気持ちが薄いのではないかと感じています。しかしこの取り組みを通じて、全校のみんなが優しい言葉を使う、困っている人を助ける、相手の気持ちも考える、などの思いやりのある行動ができるようになればいいなと私は考えています。

このように一人一人がスローガンを心かけ、思いやりを大切にした活動を行っていけば、楽しい学校になり、みんなが明るくなると思います。一人一人が相手の気持ちを考え、ひとにやさしくすれば、笑顔が増え、今よりもっといい学校になるでしょう。明るい学校を作ることは、明るい地域を作り、明るい社会を作ります。私たちさくらプロジェクトは、あいさつと思いやりあふれる学校を目指し、これからも活動していきます。

## さくらの子応援隊部会の活動について 野口さん

さくらの子応援隊は、瀬谷さくら小学校の児童の勉強や放課後の活動を、子どもたちと一緒にになって頑張っていこうというメンバーの集まりです。最初に構成メンバーをご紹介します。図書ボランティアの永さんほか15名の方、読み聞かせなどの活動をしているモチモチ文庫の笠原さんほか、ウクレレ演奏の指導をしているウクレレ遊友会の皆さん、コーラスの指導をしているカナリヤ会の皆さん、琴の演奏を指導されている笙の会の皆さん、盆踊りの指導をしていただいている糀山先生、横田さん、大野さん、佐藤さん、それから、花や野菜の作り方を指導をしていただいている岩野さん、そして算数の学習支援と補充学習それとクラブ活動支援に参加していただいている大勢の方がおられます、今日見ているのはほんの一部の方たちです。

最初に算数授業サポートですが、毎週火曜日に1時間目と2時間目の正規授業に、毎週10名以上の方が入って指導しています。今年から始めたもので、前期は3年生だけでしたが、後期からは4年生にも実施しています。総勢45名で、分担して一人月1回のペースで実施しています。

次に、算数補充は放課後に年11回、4~6年生を4教室に分けて実施しています、参加者は45名あまりです。ここでひとつ申し上げたいのですが、算数のわからない子は、本当はいないのです、なぜわからないかというと、家に帰っても教えてくれる人がいない。学校の教室では、一人の先生が30人も40人の子どもを受け持ちはますが、全員を個別に集中的に教えることはできませ

ん。だから、わからない子はわからないままになってしまいます。先生方はそれなりに努力していただいているのですが、やはり、親御さんとか地域の人気がついて子どもに教えないといと、本当のレベルアップにはなりません。本当は1対1で子どもについて教えればいいのですが、今は40数名しかないので、一人で2~3人から4~5人の子どもたちを教えています、これでも不充分です。これからも継続していきますので、地域の方や保護者の方で、子どもたちに算数を教えるという方がいらっしゃいましたら、是非、連絡していただいて、参加入していただきたいと思います。教えれば必ず上達します。校長先生からも、効果が出ていると聞いていますので、是非お願いします。



クラブ活動支援は、正規の授業の5時間目にクラブ活動として年10回実施しており、参加者は24名。内容は、マラソン、イラスト、科学実験、手芸、手品です。手品はとても人気があります。

ウクレレ遊友会は、田中先生に指導していただいて、1,2年生を対象に、これは年1回実施しています。メンバーは13名で、今年で7回目になりますが、ウクレレのほかにもいろんな楽器を使っ

て、童謡とかハワイアンなどを合奏したりしています。子どもたちがウクレレを使ってカエルの合唱を演奏しますがとても喜んでいます。

1年生との交流会は、10名で6月に3日間やりました。その初日の中身は1年生から質問を受けます。「なんで学援隊をやっているのですか?」とか「学援隊の方は普段は何をやっているのですか?」とか、非常に難しい質問が出ました。答えに困って、「何もやっていません」と答えていらっしゃる方もありました。二日目は、けん玉、折り紙、コマ回しなどの昔遊びをやりました。最終日には、子どもたちからのお礼ということで、子どもたちが歌を歌ってくれたり、お礼の絵手紙をもらったりしました。

図書ボランティアの方15名、モチモチ文庫の6名の方たちは本の読み聞かせや図書の整理を行っています。カナリヤ会は年1回、3、4年生を対象に合唱の指導、笙の会は年1回、10名の方が6年生を対象に琴の演奏指導を行っています。盆踊りの

指導は3日間1年生を対象に一昨年から実施しています、1年生がヤグラに上っての盆踊りは夏祭りの名物になっています。

このほかに、6年生の社会科の授業で、終戦当時に6年生ぐらいの子どもで、この周辺に住んでいた方にその当時のこの地域の様子を聞く会を設けようとしていますが、なかなか見つかりませんでした。そこで、下瀬谷自治会の仙田純三さんにお願いして4名の方を集めて頂き、11月22日に話をしていただくことになっています。

最後に、さくらの子応援隊の支援団体の、瀬谷さくら小学校PTAは太田会長、学援隊は馬場会長、交流会は黒木会長、それからさくらの子基金は網代会長が就任されました。そしてPTAから毎年5万円、学援隊はアルミ缶の売却代金30万円程、交流会からは毎年10万円をさくらの子基金に寄贈して頂き、さくらの子応援隊および学援隊の活動資金となっています。本当にありがとうございます。

### 図書ボランティアの活動について 永さん

私たち図書ボランティア（レインポースマイル）は、「本と仲よく」を目標にして、第2、第4月曜日の中休みに、絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。また、今年度より第2、第4金曜日の朝、朝読書ということで、4～6年生の教室に本の読み聞かせに行きました。そのほかの活動として学校図書館の本の整理整頓、学級文庫の整理、入れ替え、季節ごとに壁面の飾りを変えたり、四季の歌を選び掲示したり、そういう活動を行っています。

今年度は特に、利用しやすい学校図書館を目指し、絵本の配列や整理に力を入れています。学校図書館



が、子どもたちにとって居心地のよい、笑顔になれる場所になってほしいとの思いから、サークル名をレインポースマイルと名付けました。利用しやすい学校図書館ということで、誰もが本を探しやすくするために、一工夫しました。全国で統一されている分類番号を、低学年でもわかりやすいように色分けをしました。その配置図は図書館に入ってすぐの場所に、低学年にもわかるような高さで貼ってあります。この夏の推薦図書を一か所のコーナーにまとめ、子どもたちが探しやすいうように、はまっ子読書コーナーの場所を作りました。また、詩の本から季節に合った作品を選び、作者の紹介とともに展示してあります。先生方にも、ご自分の好きな本や、みんなに読んでもらいたい本を選んでいただき、感想とともに紹介しています。先生と同じ本を読むことによって、教室での会話が弾むことを期待しています。

中休みの読み聞かせは、子どもたちは自由参加で、話を聞きたくなったらいつでもここに座って聞いて下

さい、というやり方をしています。時には大形の絵本や紙芝居を読んだりしています。当初は図書室の中で読み聞かせを行っていましたが、話を聞きに来てくれる子どもたちが増え、本を借りに来る子どもたちと混じって、うまくいかなかったので、今は空き教室を使わせてもらっています。静かで、落ち着いて話が聞ける環境になったと思います。

読み聞かせが終わると、子どもたちと一緒に折り紙をしています。その時の季節にあったものをと思いながら折り紙を選んでいます。この時は夏だったのでカニを折っています。折った作品は、壁面飾りとして貼ってもらったり、家に持つて帰つてお母さんたちに見せてもらったりしています。読み聞かせに参加する子どもたちの中には、折り紙の方が楽しいようで、お話を終わつたらすぐに、「折り紙は」と要求する子もいます。

こちらは学校図書館の中の壁面飾りの写真です。私たちレインポースマイルのメンバーが手作りで作成したものです。ぼろぼろにならないように加工したものや、お花など立体感のあるものはそのまま展示しています。7月には、本物の笹と短冊を用意して、七夕の飾りも行いました。こちらはメインとなる大きな壁面の飾りです。こちらも季節ごとに変えています。

こちらは各教室の前にある学級文庫です。主に年度の初めですが、本の整理をしたり入れ替えをしたりしています。よく読まれる人気のある本は、ぼろぼろになってしまいますので、そのような本は、リ・ブック・セセやの皆さんに、2か月に1回修理をしてもらっています。私たちも、リ・ブック・セセの方たちに教わりながら、緊張しながら、実際の作業に参加しています。

以上が私たちレインポースマイルの活動ですが、これからも子どもたちとのふれあいを大切にしながら、笑顔のあふれる活動をしていきたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

## 地域連携部会の活動について 黒木さんほか

みなさんこんにちは、地域連携部会の黒木です。交流会については、すでに皆さん読んでいただいてると思いますが、学校だよりの9月号に校長先生が詳しく書いていただいております。これを読んでいただければ、交流会の動き、成り立ちなど、すべてわかると思いますので、そちらをご覧いただければと思います。

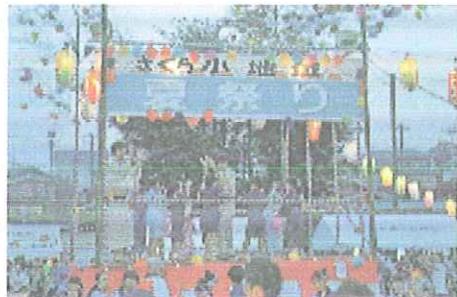
そこにも書いてありますが、さくら小になってから3年続けて、夏祭りで子どもたちが踊るスタイルが、だんだん定着してきて、大変よかったです。これからも続けていかなければいけないと思いますが、あえて言うなら、子どもたちだけでなく、大人、親御さんたちが写真を撮るだけのように見えますので、できれば、一緒に踊っていただければ、本当の地域ぐるみのお祭りになっていくのではないかと思っております。

それと今年度は、青バトの運営資金に困っているというお話がございまして、どこからか資金を捻出しなければいけないと、いろんな問い合わせがありました。そういう中で、お金を出すのに、諸団体の中でどこが一番適しているかというと、やはり交流会が、これまで子どもたちのためにやってきたといういきさつもありますので、そこから出すのが一番いいだろうという話になりました。模擬店の売り上げの中から何とか10万円ほど出せないかと、総会に諮り、賛同を得てきました。夏まつりには、毎年大体24店舗が出店しており、その総売り上げが220～230万円ほどあります。そこから原価を引きますと、その年によって違いますが、大体80～100万円の利益が出ます。交流会の運営費約50万円はそこから負担していただいているが、今年は、それに10万円を上乗せして各店舗に負担していただきました。このように皆様のおかげで、10万円をさくらの子基金に寄付させていただけたことは、大変うれしく、今後もこのような形で協力できればいいなと思っています。

今後とも、地域の団体として、学校の運営その他、地域ぐるみで子育てを支援していきたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

### 興倉さん

ひなた山地区は、泉区に属する地区と、瀬谷区に属する地区があります。それぞれの地区はそれぞれの区の連合自治会に属しており、当初は、た



がいに一緒にすることはませんでした。それで、ひなた山地区の連絡協議会というものを作って、いろんな情報を共有したり、親睦を深めたりしてきたわけです。地区協が主催しているひなた山地区的夏祭りは、子どもたちの数が多かった頃は、2日のうち1日は、子どものための出し物を中心に行っていました。しかし、子どもたちの数が少なくなって、祭りそのものが1日になってしまいました。ところが、小学校が統合してから、下瀬谷の方からも参加する子もいて、子どもの数がすごく増えました。一昨年、出し物に参加したら差し上げる品物の数を300準備したら、足りなくて、去年は、400では足りないだろうと、500にしたら多少余ったのですが、このように、夏祭りに参加する子どもの数が増えています。地域の交流というのは、子どもたちが鎌になって盛んになっていくのではないかと思います。夏祭りでは、子どもが担ぐお神輿が余ってしまって、担ぐ子どもの数が足りないので、まわりが手伝ってやっと揃えている状態です。ひなた山地区だけだとそうですが、そういうイベントがあることによって、子どもたちが各地から集ってきて、交流を深めるといいと思っています。

今年は、中学校の行事で、ドラム缶をたたいて大きな音を出すプロの演奏者（カリブ海の国の一つであるトリニダードトバコから日本に来ている方）の演奏を聴いて盛り上りました。その人と話してみたら、以前にもそういう風にして、ボランティアでやったことがあるということなので、いつかそういうイベントもやってみたいと思っています。

### 金澤さん

私たちの自治会は9棟230世帯で、私が住み始めた28年ぐらい前は多くの子どもたちがいて、100人は超えていたのではないかと思います。今、数えてみると30人いるかないかです。そのお蔭かどうかわかりませんが、子ども会も自然に消滅してしまいました。しかし、こういったさくらの会のおかげで、子どもたちは子ども会がなくともいろんな活動に参加させて頂き、学校のレベルも上がって、年3回、団地の中を掃除するのですが、その中にも子どもたちが大勢参加して、あいさつできるようになったのも、この4年間の学校運営協議会活動の賜ではないかと思います。子どもの数は少なくても元気にやっています。

これからの課題としましては、自治会の組織の中に、もう一度、子ども会を復活させたいと思っています。私一人ではできませんし、また、若い人が入ってこないと、ご多分に漏れず少子高齢化です。昨日、私どもの自治会で敬老会をやりましたが、体の不自由な方も多くなっています。この

前のお祭りのときは、私たちの孫が来まして、他にもみんなお孫さんが来ていて、そういう時は仲良くやっていて、子どもが増えて楽しいと思いました。

### 学援隊部会の活動について 今井さん

みなさんこんにちは、ひなた山の今井です。今年6月12日の学援隊総会で、馬場さんが会長に就任されました。今日は馬場さんが所要のため欠席しておりますので、代わってご報告します。今日は学援隊の方々が大勢お見えになっています。毎日の登下校の見守り、青パトによる防犯パトロール、いつもご協力ありがとうございます。

登下校時の見守りは、校区の通学路とその周辺を毎日大勢の方々に、145名の方々がいらっしゃいますが、ご協力いただいております。青パトにつきましては、毎朝、午後は週3回、下瀬谷地区、下瀬谷ニュータウン地区、ひなた山地区と、広い範囲を青パトに乗ってパトロールしていただいています。

そのほかの活動として、アルミ缶を回収してその売却代金を青パトの維持費の一部としてあてようとしています。現在の青パトがかなり老朽化していますので、更新の積立も必要です。夏休みなどの長期休みを除いて、毎週木曜日に子どもたちが持ってきてくれたアルミ缶や、各自治体から集めたアルミ缶を売却しています。アルミ缶は、そのままだと車に乗せきれないので、玄関前でつぶしていますが、アルコールの匂いがしますので、できれば、軽く洗って出していただければありがたいです。

学援隊活動の効果ですが、毎朝の児童との笑顔でのあいさつ、これによって、大人たちの気持ちもかなり大きく影響されてきました。また、隊員の方々が顔見知りになったおかげで、日頃からよいお付き合いができるとか、防犯などに関する

私たちの自治会は小学校のすぐ近くにござりますので、お子さんがいなくても協力して下さる方が沢山いらっしゃいます。一緒に、この活動を盛り上げていきたいと思います。

### 情報交換について 今井さん

情報交換ができるとか、いい効果が出ていると思います。その反面、隊員の方々の高齢化が進んでおり、ほとんどの方が60才を超えていますので、これから、若い方の参加がどうしても必要だと考えています。これが大きな問題点の一つです。

交通安全指導は、交通安全協会のご協力を得まして実施しています。1年生との交流は、体育館



で昔遊びをやったりしました。それから、街歩きですが、3年生の校外学習について、下瀬谷地区

で2回、ひなた山地区で1回、実施しています。7月5日にはスクールゾーン協議会に出席し、瀬谷、泉、両区の区役所、警察署、土木事務所の方たちと、スクールゾーンの問題点とか、改善してほしい点について要望事項をだして、話し合いをしました。これは毎年実施していることですが、今年度はひなた山地区的通学路の変更もありましたので、特に、泉区から瀬谷区に渡るところの話が多くありましたので、有意義な会だったと思います。

夏祭りでは、いつものように、会場内および周辺、駐輪場の警備を担当しました。また、アルミ缶回収への協力要請や学援隊員募集についてのチラシを、学区内の全戸に配布しました。

### はまっ子部会の活動について 青木さん

皆さんこんにちは、はまっ子のチーフをしています青木です。よろしくお願ひします。日頃よりはまっ子に対して、皆さんの深いご理解とご協力を賜っていますことを御礼申し上げます。

それでは、4月から8月までのはまっ子の活動をご報告をいたします。今年度は1年生の入学が多く、参加児童も増えております。一日平均30.4人になっていますが、時には50人近くのお子さんが参加しています。今年は梅雨が短く、夏は猛暑続きということで、高温注意報が毎日毎日続きました。子どもたちは、外で遊んだり体育館で遊んだりするのがほんとうに好きですが、毎日高温注意報が出ているので、どうしても、はまっ子の部屋のエアコンが効いているところで遊んでもらうようになり、体育館や校庭での遊びは1時間程度

となりました。校庭で遊んでいても、光化学スモッグ注意報などが出ると、すぐ部屋に入るよう指導してきました。

はまっ子で行った主な行事ですけれども、七夕コンサートをしていただいたり、マジックショーをしていただいたりしています。また、夏休みのオリジナルカレンダーや作り、これは、子どもたちの夏休みだけのカレンダーを作ってもらって、それに自分たちの行事を書いてもらうということを毎年行っています。それと、今年初めての活動として、トウモロコシの収穫体験をさせて頂きました。

学校の東側にある農家の平野さんにトウモロコシを作っていただきまして、トウモロコシのできるまでを説明していただきました。「一番高いと

ころに花が咲いて、それが下のトウモロコシの髪のところに受粉するんですよ。その髪の数だけの実が成るんですよ。」という説明に、子どもたちは「えーっ！ただの髪じゃなかったんだ！」と驚いていました。8月に入って、スイカ割りやシャ



ポン玉を行いました。スイカ割りも例年ですと外で行うのですが、体育館をお借りして行いました。いま毎

日のように行っているのは紙飛行機です。使用済みのコピー用紙で紙飛行機をつくり、誰のものが一番飛びか競争しています。やり始める前は、最近の子どもたちはテレビゲームやそのほかのゲームを一生懸命やっていて、紙飛行機なんか飛びついてくれるかなと思ったんですが、夢中になって遊んでいます。同じような折り方でも、飛び距離

が全然違うということで、「また何時やるの、また何時やるの」と子どもたちにせがまれながら、毎回、子どもたちと一緒に紙飛行機を飛ばしています。だから、今の現代的な遊び道具じゃなくて、昔遊び、子どもたちが今まで接していない遊び、それが子どもたちにとっては新しい遊びなのかなあと思います。私たちが昔、慣れ親しんでいた遊びが、子どもたちにとっては新鮮なのかなあと、皆さんのご協力を頂きながら活動しています。

今後の活動としては、9月の18日にカローリング、10月5日には、平野さんの畑で、お芋掘りと落花生掘りを行います。

最後に、はまっ子は学校の3階にありますけれども、毎日楽しく活動していますので、学校においてになった際には、ちょっとだけのぞいて、子どもたちに声をかけて頂ければ幸いです。私とスタッフ7名も、これからも子どもたちのために活動を続けてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

### 広報・学校評価部会の活動について 西村さん

広報・学校評価部会は、学校運営協議会の活動を、保護者の皆さんや地域の皆さんにお知らせするとともに、皆さんのニーズを収集して、学校運営に反映させる役割を担っております。学校評価につきましては、先生方による内部評価に対する学校運営協議会の評価をサポートする役割と考えています。当部会は、PTA会長の太田さんと副会長の永さんと私、西村の3人で活動しています。

具体的な活動としましては、学校運営協議会だよりの発行です。今年は7月に第1号を発行しました。主な内容は、瀬谷さくら小学校は開校4年目を迎えて、改めて、「学校運営協議会設置校」に指定されたこと。25年度の協議会の新体制と具体的な取り組みについて。それから、昨年度、設立準備中としてお知らせした学校ファンド「さくらの子基金」が正式に発足しましたので、改めて詳しく掲載しました。また、糀山金久さんの逝去

に伴い、学援隊隊長に馬場さんが、交流会会長に黒木さんが、それぞれ就任されたことなどが主な記事でした。

今後の予定としましては、さくら小地域夏祭りや、防災訓練、さくらの会などを予定しています。防災訓練では、「学校にいるときは、私たちが君たちを守る。だけど、他のところでは自分の身は自分で守るのですよ！」との校長先生の子どもたちへの訓示が、大変迫力があり、とても印象に残っています。子どもたちもきっと肝に銘じたのではないでしょうか。

学校評価につきましては、現在、先生方が内部評価をしていただいている、11月の学校運営協議会に報告されると思います。運営協議会はそれを評価し、コメントすることになっていますので、次の学校運営協議会だよりでご報告いたします。

### 災害から子どもを守る部会 綱代さん

災害から子どもを守る部会は、何時いかなる状況で災害が発生しても、災害から子どもを守っていただきたい、という思いで活動をしています。学校や保護者、地域の皆さんとの役割や連携のあり方などを検討しているとともに、いろんな取り組みを行っています。取組といたしましては、発災時、児童の皆さんの安全確保について、保護者や地域の多くの皆さんに、広報誌を通して、また、さまざまな集いの折に、お願いをしております。

次は地域の防災力を高める活動であります。今、皆様、いろいろと取り組んでおられるかと思いますが、災害はいつ発生するかわからないので、わからぬという状況の中で、やはり、備え

ておくということがいかに大事であるかということを、地域の皆様に、保護者の皆様に、訴えて、備えて頂こうと考えています。そうすることが、児童のみなさんはもとより、地域の方々を守るということにつながるだろうと考えています。また、ただいま西村さんから、防災訓練での校長先生の話を頂きましたが、児童の皆さんのが自ら災害から命を守るために、というこ



とで、防災知識を、また、防災技術を身に着けて頂くということが、非常に大切だと考えています。校長先生のお話の通りだと思います。

そんなことから、8月31日に行いました秋の防災訓練の際、学校と一緒に実施させていただき、児童のみなさまにも煙体験や、初期消火訓練、救護訓練、救急給水訓練などを実施していただきました。熱心に取り組んでいただいている姿は、地域の方々にとっても、いい刺激になったことと思っています。また、地域の皆さん、暑い中、一生懸命取り組んでいただいている姿も、児

童の皆さんにとって、「ああ、皆さん一生懸命やっておられるんだなあ、自分たちも」というふうに感じて頂けたら幸いだと思っています。それから、地域が安全でなければいけないと考えています。通学路については、木曜日でございますが、地震災害等の折、それが災いにならないよう、危険箇所の点検や改善を図る努力を続けております。みなさまがお気づきになられた際には、是非、お知らせ頂くとともに改善を図ってまいりたいと考えています。

### さくらの子基金について 総代運営委員長

さくらの子基金につきましては、やはり、資金がないと活動ができませんので、今後多くの地域の皆様や、企業、商店のみなさまにもお願ひし、ご理解とご支援を頂いてまいりたいと考えております。また、交流会の黒木会長さまからもお話し頂きましたが、ご理解を頂き、瀬谷さくら小地域夏まつりにおける大切な収益金の中から、大きなお金をこちらの方にご寄贈頂けるという話でございます。また、PTAさまからも頂けるということで、心から感謝を申し上げます。その使い道でございますが、大切に、そして、しっか

りと、活動を判断させていただき、活用いただきたいと考えております。まず、毎日ご熱心に活動していただいている学援隊の皆様の活動について、また、学習支援をしていただいている多くの皆様について、それから、その他の各部の活動につきましても、ご要請をいただき、それを運営委員会で討議させていただき、大切にお配りさせていただき、使っていただきたいと思っています。どうか皆様方におかれましても、この基金に対するご理解とご支援を心からお願ひし、挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひします。

### カナリヤ会のコーラス

ここにちは、本日は演奏の機会をいただきありがとうございます。このところ毎年9月に演奏させていただいている。3年生と4年生の音楽の授業で、1時間ずつ、教科書に載っている唱歌、童謡、そして、私たち先輩が子供たちに伝えたい曲を、毎年ピックアップして演奏しています。いつも25名で活動していますが、今日は半分ぐらいしかいませんでした。いつもはもっと元気に歌っています。（歌を忘れたカナリヤ、富士山、神奈川県歌などの合唱を披露）

### 校長講評

皆さんの活動は把握しているつもりですが、今日、みなさんにお話ししていただいて、みんなの熱い気持ちに改めて触れました。もちろん、毎日、すごいなあと思っているんですけども、みんなが子どもたちに熱い思いをもってかかわってくださっていることを、改めて再確認して、ほんとにうれしく思いました。瀬谷さくら小学校で育つ子どもたちは幸せですね。こうやってみんなに見守られて、大人たちの一生懸命な中で育つ、本当にありがとうございました。私たち教職員一同も、みんなの気持ちをしっかり心にき込んで、なお一層、子どもたちのために頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



### 閉会の言葉 今井さん

皆さん、暑い中お疲れ様でした。最後にさわやかなコーラスが聴けて幸いました。

私、学校関係の研修会に参加していますが、その中で、校長の意思、意欲、熱意が強いほど、すばらしい学校になると、学校とはそういうものだという話がありました。瀬谷さくら小学校は、4年目を迎えてますが、初代の古川校長、八嶋校長、ともに大変意欲をもっておられて、熱い意志、意欲が受け継がれてきているということ、それに加えて、松田副校長以下、先生方も相当な意欲でもって業務に携わっておられます。これは、瀬谷さくら小学校にとっては大変うれしいことだと思っております。そのような学校と保護者とそれを取り巻く地域の方々、3つのトライアングルの連携を下から支えていくのが学校運営協議会だと思っています。これからも引き続き、協力を惜しまずにやっていきたいなど、今日も感じました。それでは、平成25年度・全体研修会・さくらの会、これをもって終了させていただきます。

## おめでとう学援隊

### 瀬谷さくら小学校学援隊が交通安全功労賞を受賞



この程、神奈川県下で7団体が交通安全功労団体に選ばれ、瀬谷さくら小学校学援隊もこの名誉を賜りました。平成25年11月15日、神奈川県歯科医師会館にて神奈川県教育委員会より表彰されました。

神奈川県教育長の藤井良一さまからも、『通学路の安全確保では、地域の方々に、子どもたちの見守り活動に日々ご尽力をいただきております。このように学校・地域・行政などが一体となって協力体制を作ることが、益々重要になってくると考えます。引き続き皆さま方のお力を借りしたいと思っております。』との言葉を頂き、大変誇らしい思いでございます。学援隊の皆様の日々の活動に改めて深く感謝と御礼申し上げます。

昨今、子どもたちが交通事故に巻き込まれる痛ましい事件が相次ぐなか、保護者や学校が対策を練り、子どもたちに交通安全を呼びかけるだけでなく、地域住民の皆様の力が必要不可欠です。元気に駆け回る笑顔の子どもたちを守ってゆく為にも、どうか、今後とも皆様のご協力をいただきたく、謹んでお願い申し上げます。（太田）

#### 【学援隊略歴】

平成17年6月	下瀬谷小学校児童の下校時見守り開始 日向山小学校の構内見守り開始
平成18年11月	下瀬谷小学校内ボランティア活動開始
平成19年5月	「下瀬谷小学校学援隊」に名称変更 メールによる緊急連絡システム導入
平成19年11月	アルミ缶回収開始
平成19年12月	青バト運用開始
平成22年4月	下瀬谷小学校と日向山小学校の統合により、 「瀬谷さくら小学校学援隊」と改称



## 前期学校評価から

教職員による前期学校評価がまとめられ、11月8日の学校運営委員会で報告されました。先生方は、普段の授業のほかに、子どもたちを育成するための様々な活動や、自分たちの教師力を高めるための研究・研修活動など、大変忙しく働いていらっしゃる様子がよくわかります。今回は、その中から抜粋でご報告いたします。中には、学校運営協議会の各部会で支援できそうな事案もあり、今後、検討していきたいと思っています。

### 【確かな学力】

- 1 基礎・基本の確実な習得を目指し「分かる楽しい授業」作りを行い、自分の言葉で考え表現する子どもが育っているか。
- 2 基礎学力の向上をめざし漢字・計算検定や算数補充学習などに進んで取り組む姿勢を育てているか。

⇒基礎・基本の確実な習得を目指して授業作りを行ってはいるが、自分の言葉で考え、表現する力につけるのには、まだまだ課題が多い。漢字検定や計算検定に進んで取り組む児童は多くなった。また、算数補充学習は、始まったばかりなので、より良い活用の仕方を模索する必要がある。

### 【豊かな心】

- 3 年間教育目標の重点化を図り、規範意識やあいさつを大切にする指導が充実しているか。
- 4 ふわふわ言葉等の推奨を通して、自他を大切にする心情や態度を育てているか。

⇒あいさつ週間や思いやり週間など、目標を意識した取り組みが、子どもから出てきていることは、大変良いことだと思う。一方、ふわふわ言葉を言うことは意識できているが、ちくちく言葉を言わないようにしようという意識は低い。日々の現場をとらえて指導することが必要。

### 【健やかな体】

5 食教育。いのちの教育の充実が図られているか。

6 「いきいきキッズ体力向上計画」の実践や朝の特別陸上クラブ等を通して、自分の健康に関心をもって体力向上に取り組む子どもを育てているか。

⇒いのちの教育の授業を発達段階に応じて行うなど充実している。「いきいきキッズタイム」が全校に浸透し、外遊びのよさに気付いた子が多くたないように感じる。これからも、職員の協力を得て、特別陸上クラブの活動を充実させる。

### 【児童・生徒指導】

7 あいさつ運動が定着し、元気で気持ちの良いあいさつができる子どもが育っているか。

8 縦割り活動が充実し、異学年交流による思いやりの心が育っているか。

9 不登校や問題行動の芽を見逃さないよう教職員の共通理解を図り、子どもの様子を丁寧に見ているか。

10 定期的にアンケートを実施し、子ども・保護者・地域の声を教育活動に反映しているか。

⇒さくらプロジェクトの頑張りで、あいさつが身についてきた。縦割り活動は4年目に入り、少しずつ高学年が育っている。しかし、まだまだ時間を設定してあげて、班長を集めてと、お膳立てが必要。縦割り活動を日常的に行うことにより、子どもたちの自発化を期待したい。9項に関しては、職員会議だけでなく、普段から子どもの様子を相談できる関係ができていると思う。アンケートは、普段分からない気付かない子どもの様子が分かるので、これからも続けていきたい。

### 【研究・研修】

11 授業研究や実技研修等、研修の方法を工夫しながら、授業力の向上に進んで取り組んでいるか。

12 指導主事や大学教授など外部講師を招き、新しい教育の情報を授業に取り入れているか。

13 横浜国大と連携し、学生への授業公開を通して授業の質の向上を図っているか。

14 メンターチームを中心に主体的な授業研究に取り組んでいるか。

⇒様々な立場の方を講師に招き、様々な視点から活発な意見交換が行われて、教師力向上に役立っている。子どもに目的をどうもたせるか、表現をいかにさせていくかが課題になっているので、後半はこのあたりを中心に研究を進めていきたい。

### 【地域連携】

15 学校運営協議会を中心に地域との連携が進み、地域協働参画型の学校作りが進んでいるか。

16 さくらの子応援隊や学援隊など多くの地域人材の積極的な学校支援によって、子どもの学習や安全環境が充実してきているか。

17 さくらの子基金の活用や、地域コーディネーターを中心とした学校支援活動が充実して行われているか。

⇒年々地域の方々に協力していただく機会が増え、充実してきている。学校のニーズと地域の教育力をうまく連携させていると思う。ただ、学校運営協議会、さくらの子応援隊、さくらの子基金、地域コーディネーターなど、教職員の中には知らない人が少なくない。教職員だけでなく多くの人に知らせていく必要がある。学習面において、更に支援をお願いしたい。

### 【その他】

1 メダカ池、観察池、ともにあまりきれいな状態ではない。生き物を育てるのなら、きちんと手入れをし、すがすがしい状態にしてほしい。学校の雰囲気にも関わってくるし、子どもの気持ちにも関わってくると思う。

2 植物（花や稻などの学習教材）を育てる場所がほとんどなく、非常に困る。近くに学習園を借りるなど良い案はないものか。

⇒探せば可能かもしれないが、維持管理などが必要で、教職員の覚悟が必要。



後、レスリングの基本技を教えてもらい、子どもたちも大人も大変盛り上がりいました。

### 【編集後記】

今回はさくらの会特集ということで、当日、デジカメのムービーで録音したものを文章に直して掲載しました。文章に直す作業は非常に難航し、人によって聞き取れない部分があり、何回聞き直しても理解できなくて、意訳したり、後から報告者に添削してもらったりしたところもあります。最初から書いた文章では味わえない、面白い表現も入っていますので、お楽しみいただけるのではないかと思います。

ページ数が大幅に増えてしまい、松田先生には大変ご迷惑をおかけしました。ありがとうございました。（西村記）

### ＜地区集会＞

7月6日、瀬谷第二小学校で瀬谷第二地区の地区集会が開かれ、さくらプロジェクトの児童も参加しました。パネルディスカッションでは、児童代表の芹沢さんと太田PTA会長が、ふるさと瀬谷への熱い思いを語りました。

### ＜さくら小地域夏まつり＞

7月27日に開催された夏まつりは、子どもたちや地域のひとたち約1,500名が集い、盆踊りや模擬店での買い物を楽しみました。1年生は、習ったばかりの盆踊りを、やぐらの上で披露しました。

### ＜秋季防災訓練＞

8月31日、瀬谷さくら小学校地域防災拠点の秋季防災訓練が行われ、全校児童が参加しました。初期消火訓練や簡易担架作成・搬送訓練、煙体験などを通じて、災害に対する認識を深めることができました。

### ＜運動会＞

10月27日、雲一つない秋晴れの下に行われた運動会。さくらソーランや応援合戦など元気いっぱいの演技、走る姿が小学生とは思えないように、様になっていた対抗リレー。さすが健康優良校の面目躍如でした。

### ＜親子道徳会＞

11月6日、女子レスリングで、オリンピック3連覇を達成した伊調馨選手を迎えて親子道徳会が開催されました。勝ち負けよりもレスリングが上手になることを目指した、夢はもち続けることが大切、試合よりもその準備に力を注いた、などの体験談を聞いた

学校運営協議会だより  
平成25年度・第1号

平成25年11月21日  
横浜市立瀬谷さくら小学校

学校運営協議会

発行責任者

会長 綱代宗四郎

編集

広報・学校評価部会